月刊
利根日石新聞

2009年11月1日
創刊
平成26年3月号
第00005号

発行
利根日石株式会社
本社販売管理部
TEL 0278-24-1635
FAX 0278-23-7980

3月

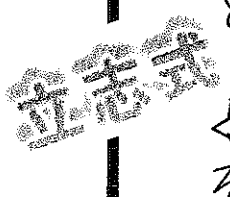
卒業式・ひなまつり
春分の日
春ですよ！

石ばしる垂水の上のさわらびの
萌え出づる春になりにけるかも
（万葉集より）

激しく水が落ちる滝のほとりのわらびが、
今こそ芽ぶく春がきたな、と歌っています。

まわりをとりまく環境は、なかなか厳しいものがありますが、芽ぶくわらびのように、力強くがんばっていきましょう！

2月の大雪、皆さん、被害は大丈夫でしたか？
庭の雪もすごくて、道路まで、がいてもがいてもたどり着けず、15日は仕事へ行けなかった方も多かったと思います。
当社も製油所からの荷が入らず、数量を製限させて頂いたりお客様には大変ご迷惑をおかけいたしました。
ローリーが家の所まで入って来れないから、近くまで来たらポリ缶持って行くからと、とてもありがたいお言葉や、少しずつ調整して使うからと大丈夫と、とても寒い日々であったのに、心暖まる皆様の心遣いにただただ感謝です。ご協力頂きまして、誠にありがとうございました。



14才の子供たちは、20才の自分へとメッセージを書いて、保管しました。楽しみですよね。

☆先月、息子の通う中学校で『立志式』が行われました。
そして…なんと講師には昨年夏の甲子園で優勝した前橋育英高校の荒木直樹監督をお招きしました。印象に残ったお話で「整理整頓」と「凡事徹底」です。
「整理整頓」は、いつも生徒をとりまく環境がとても汚なかったそうです。物は出しっぱなし、ゴミは落ち放雑…。でも部室から寮、グランドと片付けに徹底したら、それまでちょっとした事でケンカや言いあいになった事が全くなくなったそうです。むしろ、先輩、後輩の仲も良くなったそうです。
「凡事徹底」は、毎日同じ事を繰り返し行ったそうです。1つの試合にダブルプレーを2つ以上とる事を常に目標にしていて、その為の練習は毎日徹底してやって来たそうです。だから甲子園でもすばらしいダブルプレーを何回も決めました！
毎日の生活に追われ慌い毎日ですが、生活がスムーズにいくように、家の中も、会社もきれいに整理整頓していきたいと思います！頑張ろう!!

どうなる？
次世代エネルギー

先日、東京ビッグサイトで開催された「スマート エネルギー ウィーク2014」に参加しました。このイベントは毎年この時期に開催される見本市で、当初は『燃料電池』と『太陽電池』を対象としたイベントでしたが、現在は加えて『風力発電展』、『二次電池（蓄電池展）』、『スマートグリット展』などが同時開催され、世界約30ケ国から1,900社近くがブース出展し、約80,000人の来場者が集まる世界最大規模の次世代エネルギーの総合見本市です。今回はこのイベントで気付き、感じたことをご紹介したいと思います。硬い内容や乱文・乱筆ご容赦下さい。

まず最も驚いたのは、太陽電池展における海外メーカーの数の多さ！今年は特に強く感じました。ひと際大きいブースが立ち並ぶメインストリート。以前はシャープ、パナソニック、東芝など大手国内メーカーが軒を連ねていましたが、今年はシャープと、ソーラーフロンティアの2社のみ。あとは全て海外メーカーでした。理由は2つ考えられます。1つ目は大手国内メーカーにとって、太陽光発電システムの認知度が上がり製造技術も一定段階まで進んでいる為、高い出展料を支払ってブースを出す価値が失くなってしまったということ。2つ目は一昨年の7月に始まった産業用太陽光の全量買い取り制度によって大規模なメガソーラー等で、海外メーカーが日本に進出。家庭用も手がけるため、認知度向上を狙いたいということ。

4月以降の買い取り価格は決まっていませんが、現行の税込37.8円/kwh（産業用）から引き下げられるのは確実でしょう。そうすると、メガソーラーの様な大規模設備の新設は除々に減り、一般家庭の屋根や、せいぜい50kwh以下のいわゆる「低圧」の範囲が中心になってきそうです。現に経済産業省では再生可能エネルギー、とりわけ大規模発電については今までの太陽光から風力による発電設備の整備にシフトしてきています。

ただ、経済産業省 資源エネルギー庁の村上敬亮 新エネ対策課長によれば、風力の大規模発電はいわば「量」の政策。再生可能エネルギーの構成比（石炭・ガス・原発など全発電量に占める再生可能エネルギー由来の発電量）を目標に掲げた20%に近づけていく為には欠かせないが、それだけでは電気エネルギーの転換は成し得ない。「量」に加えて「質」の政策が必要とのことで、これはつまり、家庭用電気の作り方・使い方の転換です。太陽光＋蓄電池、又は燃料電池によって電気の自給自足を目指す。効率良く使うための管理システム（HEMS）、又、省エネに欠かせない断熱性能の向上によって化石燃料の使用及び、CO_2排出量を限りなくゼロに近づける住宅を目指すそうです。

この「量」と「質」の政策によって始めて、全体として実績を出せる、しかも生活の身近なところで実感できる、総合的な電気エネルギーの転換（地球環境負荷の少ない）が出来る、と村上課長は言います。電力の自由化や、発送電の分離、スマートメーターの普及とスマートグリットの実現、これら全て5年～10年の間にほぼ現実のものになると言われています。ただ、どんなに技術が進歩しても、それ等は人々の生活を豊かにする為のものであり、使うのは私達自身です。私達の生活のあり方や、価値感が変化すれば、こうした筋書きも変化するかも知れません。

いずれにせよ、冬の灯油が大切な商品の1つである私達にとって、10年以内に大きな変化が訪れることは間違いなさそうです。変化を成長へのチャンスと捉えて、頑張って参ります！